

I 学校人権・同和教育啓発資料作成部会

人権・同和教育資料『心』の改訂 ～より児童生徒の実践行動を促す授業づくりのために～

1 はじめに

学校人権・同和教育啓発資料作成部会では、2020年度に『授業づくり研修資料』等を、そして2021年度は「人権を尊重した児童生徒への教師の言葉かけ」や、現代的課題である「インターネットと人権侵害、情報モラル」等に関する研修資料を作成してきた。2020年度に実施された『人権に関する教職員意識調査の結果分析報告書』において人権課題への認識が低い教職員も見られた状況の中、これらの資料が、各校での研修にて有効に活用され、教職員及び児童生徒の人権意識向上に寄与してきたものと思われる。今後も、これらの資料を、坂出市における学校人権・同和教育の財産として活用されることを願っている。

2 研究主題について

坂出市の学校教育における財産として、小学校1年生から中学校3年生までの各学年を対象とした人権・同和教育資料『心』がある。『心』は、全国版の道徳科の教科書とは異なり、より本市の児童生徒の実態に即したものであり、より実践行動につないでいける点が、大きな特徴である。そこで、昨年度までの研修資料づくりが一定の成果を挙げていることを受け、学校人権・同和教育啓発資料作成部員で話し合った結果、本年は、人権・同和教育資料『心』とその『実践資料集』の改訂を進めていくことになった。

具体的には、現在の資料から中学校1点、小学校1点の改訂を行うこととした。小学校教員3名と中学校教員3名でそれぞれ、現在の『心』を、より現代の教育課題や、本市の児童生徒の実態に即して実践行動を学ぶ授業へとつなぐ視点から見つめ直し、削除する資料と新たに加える内容を下表に示すように設定した。



【改訂の理由】

ア 小学校

削除する題材名	小学校3年生「何で だめなの」
削除する理由	男女共同参画法が施行されてから、20年以上経ち、ジェンダー平等の意識が根つき、子どもたちを取り巻く環境も、その意識が反映され、男女の格差が縮まっている現状があることと、題材資料の中で出てくるポンポンを使う場面が、運動会等で男女関係なく使われていることなどから、この資料に代わる資料を考えた方がよいと思われたため。
改訂する視点	ジェンダーフリーの理解という視点から、すべての人権問題に通じる自己選択、自己決定をする態度を養っていく資料があらたに必要だと思われる。

イ 中学校

削除する題材名	中学校3年生「身のまわりの人権問題を考える」
削除する理由	本資料は、同和問題をはじめ、身のまわりのさまざまな人権問題について考えようという内容であるが、より具体的な内容で部落差別について生徒に考えさせるため。
改訂する視点	中学3年生のこの時期に、部落差別の問題について正しく学び、その解消に向けてどのように行動すればよいのかを考えさせることは、部落差別解消に向けて前向きに努力し、よりよい社会を築こうとする実践的態度を育てるうえで意義深い題材であると考え。

3 研究内容

(1) 児童生徒用資料の作成・選定

上記のような改訂指針に基づき、小学校、中学校部会それぞれにおいて、情報共有をしながら、新たな教材の創作・選定を進めていった。小学校部会では、新しい題材として「ぼくの もやもや」を、中学校部会では、「病院での出来事」を、以下のような趣旨で作成・選定した。(実際の児童用資料は、資料編を参照。)

① 小学校3年「ぼくの もやもや」趣旨

近年、多様性が尊重され、個性を大切にしたい社会を旨とした施策が各自治体で策定され、「LGBTQジェンダーフリー」という言葉も市民権を得てきている。しかし、今もなお子どもたちには、小さい頃から男の子、女の子という「ワク」でバイアスがかけられた育てられ方をされているのではないだろうか。

ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）や固定化された性自認の強要に縛られたものの見方や言動によって個人の能力や特性を発揮できず、自分らしく生きることができていないとすれば、大きな問題である。また、固定化されたものの見方は、性の多様性にも非寛容になってしまうのではないだろうか。

そこで、子どもたちに本当に自分らしく生きることの意味や大切さ、また、その際に必要なことを学ばせたいと考え、本題材を設定した。

本題材に出てくる「ぼく」はアクセサリー作りが好きで、休み時間にミサンガを作りたいと思っている。そして、男がそんなことするのはおかしいとか、もっと男らしい遊びをしようとする周囲からバイアスがかったものの見方で言われるのに抵抗感をもつ。たいていの場合、それであきらめてしまうか、周囲の理解が得られないまま、固持し続けて、「変な人」というレッテルを貼られてしまうことになるだろう。しかし、「ぼく」は自分の思いを大切にしたいという気持ちに気づくと同時に、「アクセサリー作りを、男の子がしてもいいんじゃない。」という友だちのことばに心が救われ、男の子らしいとか、女の子らしいというよりは、自分らしくしていきたいという気持ちになっていく。

この「ぼく」の気持ちを通して、子どもたちに自分や周りの固定化された意識について見つめ直させたい。そして、ジェンダーに縛られている考えのおかしさに気づかせ、性別に関係なく自分らしく生きることの意味や価値を正しく理解させるとともに、ジェンダーフリーという視点から、すべての人権問題に通じる自己選択、自己決定をする態度を養っていききたい。

② 中学校3年「病院での出来事」趣旨

私たちの日常生活の中には、様々な人権課題が現存している。なかでも部落差別は出身地等の理由で、就職や結婚など様々な場面で自由が奪われ、人としての尊厳が否定されるという、重大な人権課題である。中学生の時期は、学年が上がるにつれ、社会の在り方にも目を向け始め、現実の社会における矛盾や葛藤、さらに差別や偏見といった社会的な問題を見だし始める。その場合でも、現状を諦めて見過ごすのではなく、正義と公正を重んじる立場から、道徳上何が問題であるかを考え、その解決に向けて自分たちに何ができるかを話し合い、行動にうつすことが求められる。中学3年生のこの時期に、部落差別の問題について正しく学び、その解消に向けてどのように行動すればよいのかを考えることは、部落差別解消に向けて前向きに努力し、よりよい社会を築こうとする実践的態度を育てるうえで意義深いものと考えられる。本教材は、筆者が部落差別を実際に受けたことで、この人は差別をするのではないかと人を疑ってしまう心の葛藤を描いた内容である。部落差別の理不尽さや、差別する人間の弱さや醜さに気づき、差別は差別する側に問題があることを理解できる教材である。筆者が接する周りの人の態度に注目し、筆者の心情が変化していく過程をしっかりと捉え、差別は差別する側の問題であることを考えさせたい。

(2) 授業実践と教師用指導資料の作成

児童生徒用資料を、上記のように作成した後、それを基に、仮の学習指導案を作成し、各学校において授業実践を試みた。実際の児童生徒の反応を確かめながら、児童生徒用資料や、学習指導案、板書計画等を修正していった。以下に、本資料を用いた学習活動と児童生徒の反応の抜粋を示す。(具体的な支援例等は、資料編を参照。)

① 小学校3年「ぼくのもやもや」 学習活動と児童の反応

学習活動	児童の反応
1 アクセサリーについて、自分の考えを自由に発表する。	(発問) (ミサンガの写真を見せて) どんな人が作ったと思う？ (反応) 女の人。アクセサリーは、女の人がよくつけている。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">男らしさや女らしさについて考えよう</div>	
2 「ぼくのもやもや」を読んで、なぜ男子がアクセサリー作りをしたらおかしいのか考える。	(発問) あきらさんとけんじ・さとしさんたちに分かれて役割演技をして、あきらさんの気持ちを考えてみましょう。(「ドッジやろう。」と誘う場面) (反応) 役割演技をしたことで、あきらの気持ちにも共感する。自分もあきらのようなことがあったと振り返ることができた。 (発問) あやかさんの言った言葉を受けて、あなたなら学級会でどんな発言をしますか。 (反応) ・自分のしたいことをすることはおかしくない。 ・男らしく、女らしくはおかしい。だって、みんなちがっていいから。など、ジェンダーフリーについての意見がでた。
3 自分の生活を振り返って考える。	(発問) ちがいのちがいについて考えてみましょう。 (反応) 「男らしくしなさい。」「女の子だから身だしなみに気をつけなさい」「女子はかわいいものが好き」など、身近な話が出てきた。

② 中学校 3 年「病院での出来事」 学習活動と生徒の反応

学習活動	児童の反応
1 香川県同和問題啓発ポスターを見て、テーマを話し合う。	
2 「病院での出来事」を読んで考える。	<p><発問> 涙があふれ、何度も私がおばあちゃんに謝ったのは、なぜだろう。また、そこからどう思うか。</p> <p><反応> ・おばあちゃんも私を差別したのかと思ったから。 ・おばあちゃんが私を差別しなくてよかった。 ・みんながみんな差別する人ではないんだな。 ・差別される体験をすると 人を信用できなくなるんだな。</p>
3 「差別」はなぜ起きるのかを考える。	<p><発問> 「差別」はなぜ起きるのだろうか。</p> <p><反応> ・優越感があるから。 ・悪いうわさを信じるから。 ・部落差別を正しく理解していないから。 ・誤った知識や誤解が差別を生んでしまうから。 ・偏った情報から得たイメージでその人を決めつけてしまうから。 (中略)</p>
4 本時のまとめをする。	<p><発問> 「差別」をなくすために、自分にできることを考えよう。今日の授業から学んだことを、どんなふうに日常生活に生かせるだろうか。</p> <p><反応> ・部落差別の問題について正しく理解しよう。 ・差別は間違っている、絶対に許されないという強い気持ちをもちたい。 ・人の間違った意見に惑わされず、自分で正しい判断をして行動しよう。 ・差別に気付いたら、間違っていると言う勇気をもちたい。</p>

4 成果と課題

【小学校】「アクセサリー作りを男の子がしてもいい」と考えた子どもも、実生活においては、「お父さんがごはんをつくるのはおかしい」など、無意識の思い込みによる言葉を使うことが多い。今後も、学級活動などで話し合いをしたり、日常生活のいろいろな場面をとらえて考えさせたりすることにより、男女の性別にとらわれず、自分らしく生きることの大切さについて理解をさらに深めたいと思う。

【中学校】部落差別を受けた時の気持ちと、部落差別ではなかったと知った時の気持ちを対比することで、思考を可視化し、部落差別の理不尽さや差別する弱さや醜さに気づき、差別は差別する側の問題であると理解できた。SNS や動画投稿サイト等においても悪質な差別事象が起きている。今後身近な生活にある差別や偏見に気づき、差別を解消する態度を身につけさせたい。

なお今回は、小中 1 点ずつの改訂を行ったが、今後も継続的に見直し、本市の児童生徒の実態に合い、地域に根差した『心』を改訂し、人権・同和教育のより一層の充実を図っていきたい。